



## ◆◆ 介護相談活動のなかで「気付いたこと」「感じたこと」 ◆◆

訪問先では、なるべく一人ひとりに声を掛け、無口な方には天候や季節の花、旬の野菜などのお話をし、会話・コミュニケーションができるように心掛けている。

何度か訪問していると私達の顔を覚えて、「また来てくれたのね」と手を差し伸べて身の上話などをしてくださる。人生の大先輩方のお話はとても勉強になる。(八島 夕紀子)



利用者さんの個性を尊重して行われる施設のサービスに、利用者さんの感謝の気持ちが自然に表れ、よい関係が繋がっていく様子などに触れ、人と人との関係性はどこにいても同じと気付かされ、学ぶことも多い。

介護相談員として、施設での関係性の手助けができればと思う。(久野 佳子)



利用者さんの施設での生活の捉え方は様々である。例えば、「家に帰りたい、家がいい」と言いながらも、自分の体や家族のことなどを思い、次第に施設生活を受け入れ「ここに入れて良かった、ここは良い所」に変化していく方、「ここに居ても自分で興味を持てばいろいろなことができる」と前向きに捉える方等々。

利用者さんのより良い生活のため、今後取り組んでいければと思う。(佐藤 栄子)

ある利用者さんから、「ここで生活できて本当に良かった。職員さんは優しいし、食事もおいしい。清掃もしてくれて本当に安心して日々を送れる。家に居たら一人ぼっちだもの」とのお話を聞き、あらためて施設等の大切さを感じた。(内田 貞子)



介護相談員としての活動は、自分自身の人生を歩むための勉強になっている。施設の職員さん、利用者さん、そのご家族との信頼関係を築き、結果として、施設や利用者さんの問題の解消や介護サービスの質の向上を図ることができれば、嬉しい限りである。(佐藤 孝)



訪問時に、自宅に行くバス停を探し施設内を歩いている利用者さんを見掛けた。次回訪れると、施設内に作られたバス停に穏やかな表情で座っている姿があった。

施設に「良いアイデアですね」と伝えると、施設長さんは困った顔で「ご本人を騙したことになるので悩めます」と言われた。意外な言葉だったが、施設が利用者さんの居場所となるように職員さんの努力が日々続いていることを知らされた。

施設は、地域と共に歩むためボランティア等を広く求めており、多くの方が訪れ、理解を深めたら、豊かな老後に繋がると思う。(池田 啓子)

